

小学校 図画工作科

1. 図画工作科における学習評価の基本的な考え方

図画工作科では、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成していくことが大切です。図画工作科でも、学習指導要領に示された内容を、そのまま単元の目標や評価規準として設定することが可能です。今回の改訂では、表現及び鑑賞の活動において共通に必要な資質・能力である【共通事項】について、「自分の感覚や行為を基に、形や色などの造形的な特徴を理解すること」等が「知識」として、「形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと」などが「思考力・判断力・表現力等」として位置付けられました。

2. 小学校図画工作科の学習評価の事例

小学校図画工作科においては、低・中・高学年ごとに内容のまとまりが示されています。

各学年においては、2 学年間を見通して目標を設定し、学年間の関連を図るとともに、その 1 年間に必要な経験などを配慮しながら、それぞれの学年にふさわしい内容を選択して指導計画を作成し、目標の実現をめざします。この内容のまとまりを踏まえた学習評価の事例を、第 3 学年の「絵や立体、工作に表す活動」で説明します。

「内容のまとまり」	指導事項
「造形遊び」	『A 表現』(1)ア、(2)ア 〔共通事項〕(1)ア、(1)イ
「絵や立体、工作」	『A 表現』(1)イ、(2)イ 〔共通事項〕(1)ア、(1)イ
「鑑賞」	『B 鑑賞』(1)ア 〔共通事項〕(1)ア、(1)イ

例

第 3 学年 「のこぎりザクザク生まれる形」

内容のまとまり

第 3 学年 「絵や立体、工作」

(1) 題材の目標の設定

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現などが分かる。(〔共通事項〕(1)ア＝「知識」) ○木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表現したいことに合わせて表し方を工夫して表す。(〔A 表現〕(2)イ＝「技能」)	○木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したこと、表現したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。(〔A 表現〕(1)イ＝「思考力・判断力・表現力等」) ○自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表現したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたり、自分の見方や感じ方を広げる。(〔B 鑑賞〕(1)ア) ○形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもつ。(〔共通事項〕(1)イ＝「思考力・判断力・表現力等」)	○進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。 学習指導要領の「内容」には、学びに向かう力・人間性等について示されていないことから、第 3 学年及び第 4 学年の目標(3)及び「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」に該当する学習指導要領の内容を参考にして、題材に即し下線部のように具体的に示す。

(2) 題材の評価規準の設定 題材の目標と内容のまとまりごとの評価規準(例)を参考にする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現などが分かっている。 ○木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表現したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 題材の目標が具体的に設定できていれば、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」については、文末を「～している。」に変えるだけで、評価規準を設定することができる。	○形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したこと、表現したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ○形や色などの組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表現したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたり、自分の見方や感じ方を広げている。	○つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表す活動に取り組もうとしている。 題材の目標のうち、「形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う」の部分は、 個人内評価 とする。 「思考・判断・表現」では、〔共通事項〕(1)イに続けて「A 表現」(1)ア(または「B 鑑賞」(1)ア)を示し、下線部のように「～を基に、自分のイメージをもちながら、」と文末を変えて、一文にして表す。

(3) 材料・用具について 各学年で取り扱う材料や用具については、「解説」P.117～の「2 内容の取扱いと指導上の配慮事項(6)」に詳しく示されている。

木(小割 - 長さ約 50 cm)、万力、クランプ、のこぎり、木工用接着剤、紙やすりなど



文部科学省 HP「**図画工作科で扱う 材料や用具**」 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zukou/index.htm
 小学校図画工作科の授業で使用する材料や用具について、授業前の準備や授業後の片付けの際などに役立つアイデア、授業を円滑に進めるための工夫やアドバイスなどが紹介されています。日々の授業改善や指導の工夫、安全管理、準備や片付けの効率化等につながるポイントが満載です。学校や児童の状況に応じて、適宜参考にしてみてください。

(4) 指導と評価の計画 (6時間)

○…題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し**指導に生かす**。(※毎時間「○」がなければ
◎…題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を**記録に残す**。※ならないということはありません。)

時間	ねらい・学習活動	評価の観点と評価方法				主体的に学習に取り組む態度	備考
		知識・技能		思考・判断・表現			
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
1	・のこぎりの使い方を知り、木をいろいろな長さや形に工夫して切る。 ・のこぎりを適切に扱う。		○			1、2時間目は記録に残す評価はしないが、技能の視点で児童の活動の姿を捉え、指導に生かす。それを踏まえて5時間目に技能について評価する。 3時間目は記録に残す評価はしないが、主に発想や構想について児童の活動の姿を捉え指導に生かす。それを踏まえて4時間目に思考・判断・表現(発想や構想)について評価する。 「主体的に学習に取り組む態度」は、1時間目で評価したり、6時間目だけで評価したりするのではなく、 粘り強さや自己調整 を見取るためには、全体を通して場面ごとに 継続して見取っていく ことが大切。	
2							
3	・切った木(木片)を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見付け、どのように表すかについて考える。			○			
4				◎ 観察対話			
5	・さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。	◎ 観察対話 作品	◎ 観察対話 作品				
6	・自分たちの作品を見たり、感じ取ったり考えたりしたことを他の児童と話し合ったりしながら、自分の見方や感じ方を広げる。			◎ 観察対話 作品カード	◎ 観察対話 作品カード		


この題材では、「技能」に重点を置いた評価を行うため、「知識」については、技能を働かせる場面で評価している。

のこぎりなどの扱いに不安を感じ、主体的に学習に取り組むことができないことも考えられるため、そのような児童を題材の初めの段階において把握し、適切な指導を行うことで「主体的に学習に取り組む態度」に影響が出ないように配慮することも大切。

各時間における実際の指導と評価のイメージ(例)

知識・技能

1・2時間目 ○指導に生かす評価(技能)




「のこぎりで切ろうとしたら、木が動いて思い通りに切れない…」
「切り始めに、のこぎりの刃が思い通りに入っていかない…」

「木を万力やクランプで強く固定し、両手でのこぎりを使えるようにする」
「切り始めは、跡をつけるように軽く刃を動かす」

「知識」…木をのこぎりで切ったり、それらに触れて組合わせたりする行為やそのときに得られる感覚を通して、形や色などの組合せによる感じなどがわかり、表すことにつなげている。
「技能」…木や木片、のこぎりなどの材料や用具を適切に扱い、前年度までの木や接着剤の経験を生かし、手や体全体を十分に働かせて木を切ったり、木片を並べたりしながら、表し方を工夫している。

おおむね満足できる状況

5時間目 ◎記録に残す評価(知識・技能)



知識と技能の視点で、児童の活動の様子やつぶやきを捉えたり、問いかけたり、作品を見たりして記録に残します。

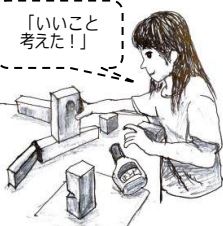
1・2時間目に材料や用具の扱いに課題のあった児童が、この段階で技能を働かせて表したいものを工夫して表していれば、「おおむね満足できる」状況として捉えます。

(例) 表したいことに合わせて、工夫して木片を接着剤で付けている。
・木をいろいろな長さや形に切っている。

「技能」は、豊かな思いに基づいた「思考力・判断力・表現力等」とともに働いて発揮されます

主体的に学習に取り組む態度

3時間目 ○指導に生かす評価(発想や構想)



「いいこと考えた!」

児童が「何を感じているのか」「何を考えているのか」などは、児童の動きや視線、会話などを捉えることでおおむね理解することができます。

(例) 自分を表したい形になるように複数の木片を並べたり組み合わせたりしている。
・木片の色の違いを生かして、どのように表すか考えている。

「発想や構想」…木片を切ったり組み合わせたりしながら、感じたり想像したりして表したいことを見付けている。

おおむね満足できる状況

4時間目 ◎記録に残す評価(発想や構想)

思考・判断・表現(発想や構想)の視点で、児童の活動の様子やつぶやきを捉えたり、問いかけたりして記録に残します。


おおむね満足できる状況に至らない児童には…

「木片を使っているいろいろな組み合わせ方を試してみよう」
「木片をいろいろな方向から見たりしてみよう」

初めの段階に活動の様子や作品をデジタルカメラ等で撮影しておくことで、後半の活動の様子や作品と比べることで、一人ひとりの「思考・判断・表現(発想)」における変容を捉えることができます。

「思考・判断・表現(発想)」における変容の(例)
・初めに見付けた形から、さらに発展させて新しい形を見付けている。
・自分の表したい形になるようどのように表すか考えている。

6時間目 ◎記録に残す評価(鑑賞)



「鑑賞」…木片の形や色の組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたり、話し合ったり作品カードに記述することで自分の見方や感じ方を広げている。

おおむね満足できる状況

授業後 「作品からの評価」

作品の分析では、作品全体の印象だけでなく、作品の部分に着目し、材料や用具をどのように使っているかを「技能」の視点で、具体的に捉えましょう。

また作品や作品カードから、粘り強さや自己調整できていたかを「主体的に学習に取り組む態度」の視点で見取りましょう。

おおむね満足できる状況 「主体的に学習に取り組む態度」

つくりだす喜びを味わい込んで木を切ったり木片を組み合わせたりにして立体に表す学習活動に取り組もうとしている。

◎発想や構想することに進んで取り組んでいるか
◎技能を働かせることに進んで取り組んでいるか
◎鑑賞することに進んで取り組んでいるかを題材全体を通して捉えるようにする。

国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校)を参考に作成